



あゝ野麦峠

野麦峠に降る雪よ いくら降っても少女たちの足跡を消すことは出来ない

山本薩夫監督作品 / 原作■山本茂実 (朝日新聞社刊 角川文庫版)



製作 新日本映画株式会社
配給 東宝株式会社

サントラ盤 CBS ソニー
主 題 歌 アレルレ
録音 渡会 重雄 伸
美術 関野 節雄
撮影 小佐藤 勝佳
音楽 佐藤 佳
脚本 服部 宮古とく子
制作 伊藤 武郎

製作総指揮 ■持丸寛二
企画 ■山岸 豊吉
金画 ■山岸 豊吉



三国連太郎

西村 晃

山本 方正

北林 谷栄

地井 武男

古手川 祐子

友里千賀子

原田美枝子

大竹しのぶ

●かいせつ

昭和四十三年、山本茂実の原作が発表されて以来、「あゝ野麦峠」は多くの映画人によって映画化が試みられました。幻の企画とまでいわれた十年。この原作にかねてから惚れこんでいた持丸寛二が、新日本映画社をおこして製作、東宝が配給することになりました。

明治後期、岡谷の製糸工場へ赴き、過酷な糸繰り工女の生活を、悔いなく、けなげに生き抜いた飛騨の少女たち。その不屈な青春群像を、秋の飛騨、冬の野麦峠を背景に服部佳が脚色、山本薩夫がエネルギッシュに演出するものです。



●ものがたり

明治三十六年二月。北アルプスの白峰を背に松明のあかりが続く。それは飛騨から信州諏訪へ向かう少女たちの百名をこす集団であった。毎年、飛騨の寒村の少女たちはわずかの契約金でキカヤ（製糸工場）へ赴く。河合村のみねはな、きくも新工として山安足立組で働くことになっていた。途中、ゆきという無口な少女も加わって、吹雪の野麦峠を越える四十里の過酷な旅が始まった。

キカヤでは朝四時半、天竜川にかかる大水車が動き出す。蒸気とサナギの悪臭がたちこめる工場では、熱湯の中で繭が

踊り、工女たちの指先が糸をつまみ出す。取り出す糸は細く一定で光沢がなければ輸出にはならない。国外向けにならない糸を出せば、検査から罵倒され、一定基準に合格しないと給金から罰金を差引かれるというきびしい制度であった。三年後、みねとゆきは足立組きつての優等工女となり、社長の藤吉からも一目おかれていた。跡取り息子の春夫もそんな二人に関心を抱いていた。

年の暮、工女たちは雪の野麦峠を越えて帰郷する。一年間働いて貯めた給金に貧しい父と母がどれほど喜ぶかを胸に描いて、家族のもとへ急ぐ。みねには最愛の兄、辰次郎が待っていた。

みねは工女として幸せな方だったかもしれない。ゆきには正月に帰る家がなかった。すでに両親は他界して、ひとりぼっちのさびしさと、みねをライバルと意識する勝気な性分から、ゆきは自ら春夫に身をまかすのであった。

ある日、金庫の金が紛失して、帳付けの新吉は社長から嫌疑をかけられた。新吉を慕うきくは思いあまって見番頭の黒木に相談するが、小屋に連れ込まれて手籠にされてしまう。きくは気が狂ったように小屋に火をつけ、新吉と共に天竜川に身を沈めてしまった。翌日、大水車に二人の変わり果てた姿がからまっていた。旧盆。きびしい工女生活の中にも、いくつかのロマンスが生まれる。バツ糸つづきの劣等工女のはなは検査代理の音松とこの夜結ばれた。

春夫には許婚がいた。ゆきは春夫の子を宿していたが、妾になるのを嫌って自力で生き抜こうとした。キカヤから去り、野麦峠を一人さまよううちに、無残にも流産してしまう。

四十一年、アメリカに不況が訪れ、生糸の輸出はとまった。足立組は国内向け

に数多く生糸を生産するしか倒産をまぬがれる道はない。労働強化は日に日にきびしくなっていた。みねはこのため結核に冒されていた。知らせを受けた兄の辰次郎は夜を徹してキカヤに駆けつけたが、みねは物置小屋に無残に放置されていた。辰次郎は怒りと悲しみをかくして、衰弱したみねを背負い、故郷に向かうはかなかった。

秋の野麦峠は燃えるような美しい紅葉でおおわれていた。兄の背に負われたみねの目に涙で揺れる故郷が広がっていた。「ああ、飛騨が見える」それがみねの最後の言葉だった。短い青春を糸繰りに過したみねは永遠の眠りにについていた。

●スタッフ

●キャスト

製作総指揮 ●持丸 寛二
企 画 ●山岸 豊吉
制 作 ●伊藤 武郎
原 作 ●宮古とく子
原 作 ●山本 茂実
(朝日新聞社刊「角川文庫版」)
脚 本 ●服部 佳
監 督 ●山本 薩夫
音 楽 ●佐藤 勝
撮 影 ●小林 節雄
美術 ●間野 重雄
製作 ●新日本映画株式会社
配 給 ●東宝株式会社
サントラ盤CBS・ソニー
へ主題歌「アルル」
政井 友二 西村 晃
辰次郎 地井 武男
みね ●大竹しのぶ
ゆき ●原田美枝子
三島 はな 友里千賀子
庄司 きく 古手川祐子
足立 藤吉 三国連太郎
春夫 ●森次 晃嗣
黒木 権三 三上真一郎
金山徳太郎 小松 方正
野中 新吉 山本 亘
川瀬 音松 赤塚 真人
お助け茶屋の老婆 ●北村 谷栄
政井友二 西村 晃
辰次郎 地井 武男



野麦峠に降る雪よ
いくら降っても少女たちの足跡を消すことはできない

山本薩夫監督作品
原作●山本茂実(朝日新聞社刊「角川文庫版」)



あゝ野麦峠

